

第4部 「創造定住拠点」形成を 進めるにあたって

01 中国圏・四国圏が目指す将来像

「創造定住拠点」形成ガイドブックを活用した地方創生の推進

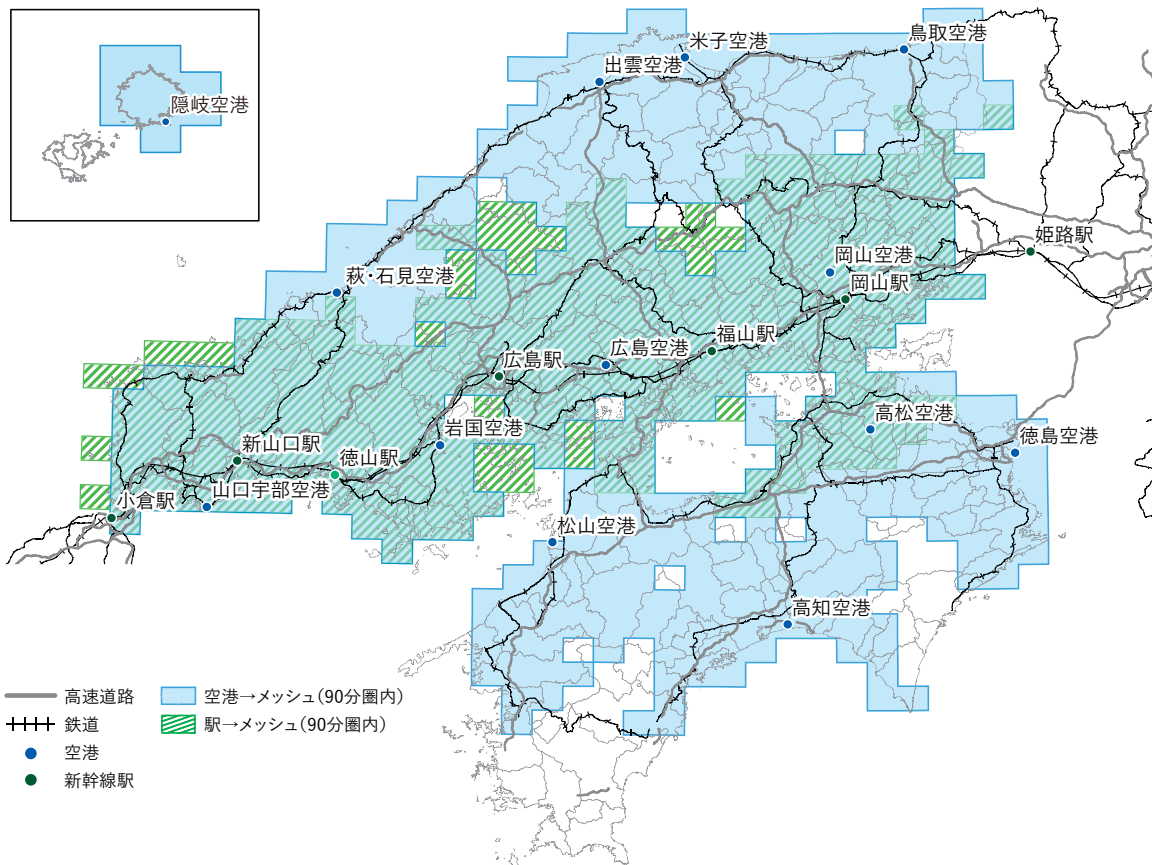
中国圏広域地方計画が目指す「瀬戸内海から日本海の多様な個性で対流し、世界に開かれ輝く中国圏」の形成、及び四国圏広域地方計画が目指す「圏域を越えた対流で世界へ発信」を基本方針として、中国圏・四国圏全体で創造定住拠点の形成を推進していきます。

また、中国圏・四国圏では、高速道路網におけるミッシングリンクの影響から広域的交通インフラ施設(新幹線駅・空港)へのアクセス性が良くない地域も存在するため、広域的な観点からの交通インフラ施設整備を推進し、ひいては三大都市圏へのアクセス性を高めていくこ

とを検討していきます。各自治体から東京までの所要時間が短くなるほど、東京から各自治体への転入率は増加することが明らかとなっているため(20頁参照)、こうした国土構造の強化は、将来的に形成されるスーパー・メガリージョンにおける中山間地域への移住ニーズ等の受け皿整備にも繋がります。

さらに、「創造定住拠点」形成ガイドブックを活用して、人口減少が顕著な過疎地域等での地方創生を推進し、徳島県美波町に代表されるような“賑やかな過疎”を中国圏・四国圏全体で形成していくことを目指します。

●新幹線駅・空港からの時間距離(自動車手段)



※新幹線駅・空港への許容移動時間を90分として設定
 出典:国土交通省総合政策局「総合交通分析システム(NITAS2.4)」

02 中国圏・四国圏における取組・方向性

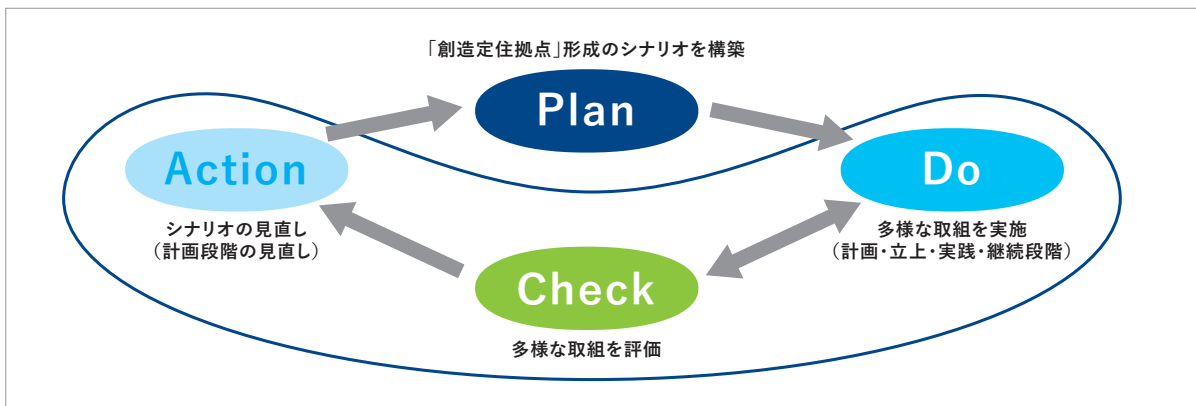
「創造定住拠点」形成のシナリオを構築し、地域づくりの各段階に応じた評価指標を設定して、定期的にPDCAサイクルを回すことが重要

中国圏・四国圏の将来像の実現に向けて、「創造定住拠点」形成の取組を持続可能なものとするためには、PDCAを回していく必要があります。

例えば、①多様な主体が連携して創造定住拠点形成のシナリオを構築(Plan)、②シナリオで描かれた多様な取組を実施(Do:計画・立

上・実践・継続段階に該当)、③多様な取組の評価を実施(Check:評価指標の活用)、④各取組の方向性の見直しや新しい取組の追加等(Action:シナリオ(計画段階)の見直しに該当)を検討していくことが挙げられます。

●PDCAサイクルの方針



●地域的観点からPDCAサイクルを回す際に活用可能な評価指標(例)

段階	評価の考え方	評価指標(例)	活用データ
計画段階	・評価指標は特になし(立上・実践・継続段階の取組を適宜評価・見直し、反映)		
立上段階	・地域に人を呼び込めているか	・地域情報サイトアクセス数	・市町村独自調査
		・ゲストハウス新設数	・経済センサス
		・関係人口の数	・市町村独自調査
		・創造的人材の数	・経済センサス
実践段階	・多様な主体の連携による新しい取組の地域への波及効果	・地域おこし協力隊の数	・総務省データ
		・第1次産業売上額	・経済センサス
		・創造的産業売上額	・経済センサス
		・子育て世代の増加	・国勢調査
継続段階	・次世代の地域づくりを担う人材が育っているか	・寄合開催回数(コミュニティ)	・農業センサス
		・地域づくりマネジメント組織数	・市町村独自調査

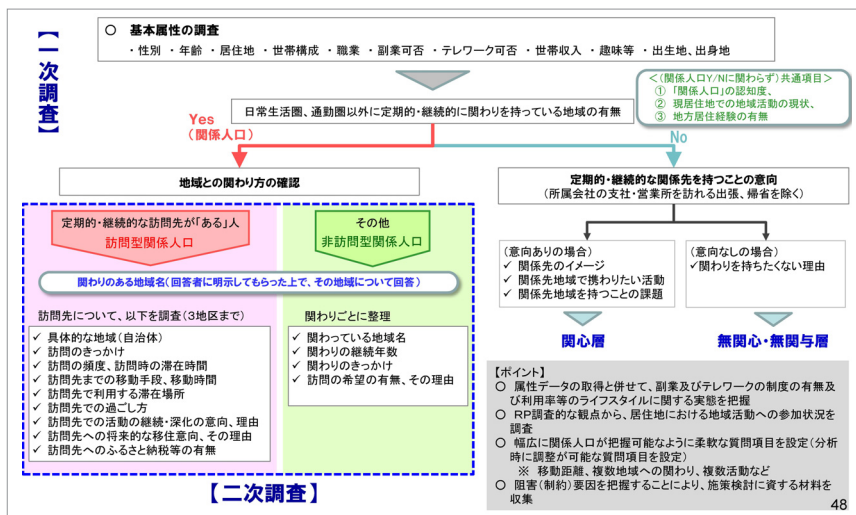
01/関係人口を把握するための調査手法

関係人口は比較的最近の概念であるため、公表ベースでの統計データが存在しません。しかし、関係人口は「創造定住拠点」形成を進めていく上で関わりが強い概念であり、定量的に把握することが望まれます。

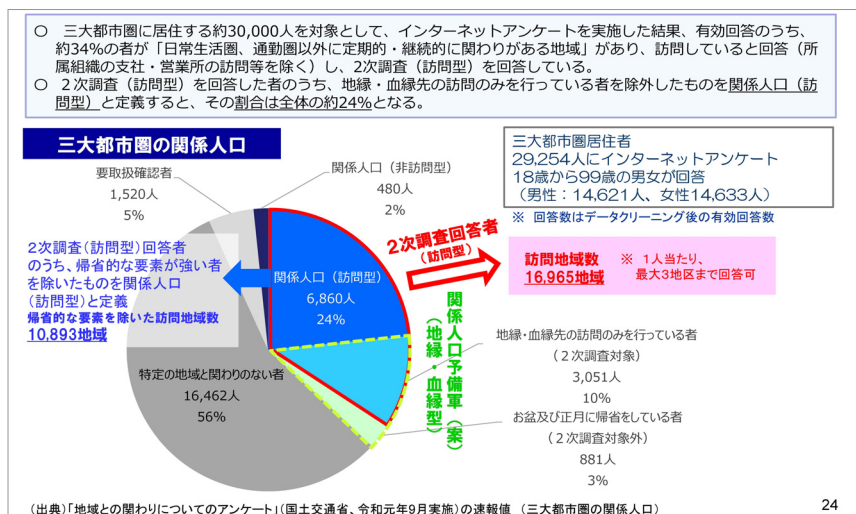
現在、国土交通省国土政策局が関係人口

を把握するための調査手法を「ライフスタイルの多様化等に関する懇談会～地域の活動力への活かし方～」において検討しているため、その一部を以下のとおり紹介します。全国レベルでの調査手法ですが、市町村レベルでの調査手法の参考にもなります。

●関係人口を把握するためのアンケート調査項目



●関係人口を把握するためのアンケート調査結果(一部抜粋)



出典:国土交通省国土政策局「ライフスタイルの多様化等に関する懇談会～地域の活動力への活かし方～」

02 / 循環型社会の実現に向けて

中国圏・四国圏では、未来に向けて循環型社会の構築を目指していく必要があります。

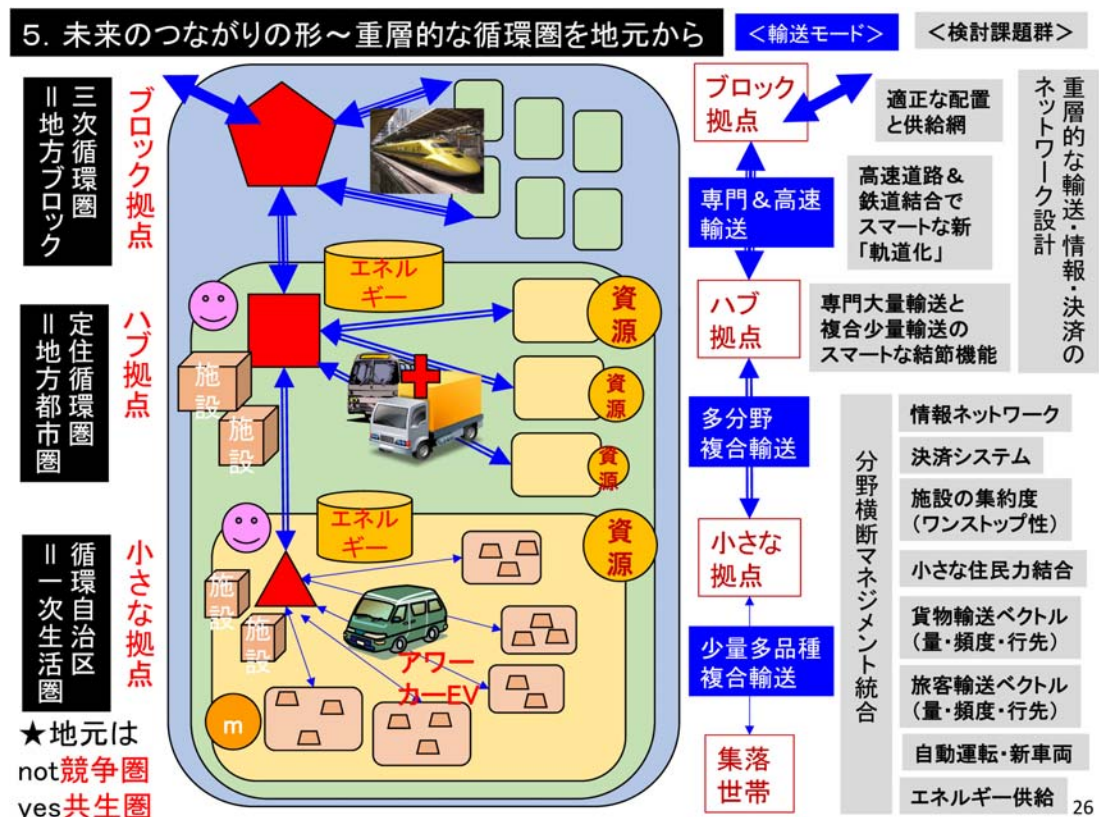
現在のモノやサービスは、一番地元の一次生活圏から地方都市圏(合併した市町村)へ、さらに地方ブロック(広域都市圏)へ行くことで、この中国圏・四国圏くらいの範囲でほぼ賅われています。この際に、中国圏・四国圏の圏外からの借りモノやサービスに頼るのではなく、中国圏・四国圏の中でモノやサービスを循環させていく仕組みが必要です。

具体的には下図のように、一番地元の循環圏(循環自治区)を大事にしながらも、外部を

含めて、人も物も開放的に行き来する循環圏(定住循環圏・三次循環圏)を重ねていくことが重要です。循環圏間をつなぐ輸送モードについては、中国圏・四国圏のブロック拠点へは広域交通インフラによる大量輸送、ブロック拠点からハブ拠点へは専門&高速輸送、ハブ拠点から小さな拠点へは多分野複合輸送、小さな拠点から各集落世帯へは少量多品種複合輸送などが考えられます。このように、循環圏と拠点の関係性を重層的に考えていくことが必要です。

※(一社)持続可能な地域社会総合研究所 藤山 浩所長/中国・四国圏の持続可能な地域づくりシンポジウムにおける発言より

● 地域人口とネットワーク(人間関係)との関係



出典: (一社)持続可能な地域社会総合研究所 藤山 浩所長/中国・四国圏の持続可能な地域づくりシンポジウム-創造的人材と地域住民、行政の3者が連携した新しい取組み-における講演資料